

研究所だより

第112号 令和元年5月

大切にしたい3つのこと

草津市立教育研究所 所長 北川 健

5月1日から新しい年号、令和が施行されました。昭和の日や国民の休日、新天皇即位を含む今年のゴールデンウィークは、10連休でした。新年度がスタートし、4月から慌ただしく業務に精励されていた先生方も、大型連休を生かして旅行などへ出かけ、少しは心身の疲れを癒されたのではないのでしょうか。

さて、現在となっては、たくさんの旅行会社がありますが、日本で最初の旅行会社創業者が草津市で生まれ、南洋軒第2代目経営者の「南新助」であることはあまり知られていません。

新助は小さいころ、祖父からよく旅の話聞かされてきました。その話はとても楽しく、いつしか新助の心の中に旅へのあこがれが芽生えました。また、彼の父は草津駅構内でただ一人売店を持つことを許された人物でした。その家業を手伝いながら「鉄道を使って何かできることはないだろうか。」と考えるようになりました。

旅へのあこがれと鉄道。そこで考え出した方法が、交通手段や宿の手配をしたり旅行の日程を考えたりする、今でいうパック旅行です。

1908年、新助が23歳の時に「日本旅行会」として起こした事業に刺激を受け、今ではたくさんの旅行会社ができています。

自分の好きなことを仕事にする。簡単なようで難しいことのようにも感じます。多種多様な仕事を選べるこの時代に、なぜ「教師」という仕事を選んだのか、今一度自分に問うてみたいものです。

新助は、仕事をする上で次の3つのことを大切にしていたそうです。

1. 人とのつながり
2. 常にアイデアを練り続けること
3. 見通しを持つこと

これは、わたしたち教師にとっても大切にすべきことではないのでしょうか？

1. 人とのつながり

目の前にいる子どもたちはもちろん、保護者地域、同僚、他機関などいろいろなつながりを大切にしたいものです。

2. 常にアイデアを練り続ける

これは、教材研究そのものではないのでしょうか。子どもたちの興味を惹きつけるにはどうすればいいだろうか、学び続ける子どもを育成するにはどうすればいいか、私たち教師が常に考え続けなければならないことです。

3. 見通しを持つ

来年度から新しい学習指導要領が全面実施されます。各教科で育てたい資質・能力を理解し未来を生きる子どもたちの姿を描きながら、見通しをもって教育に携わっていく必要があります。

教育研究所では、教員の研修・調査研究・教育相談・スキルアップの4つの事業を行っています。

新助の3つのことを大事にしながら、先生方とつながり、新しい情報を取り入れアイデアを生み出しながら発信し、これからの草津市の教育・保育の向上につながる道しるべを示していきたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願ひします。

令和元年度教育研究所事業紹介

研究奨励事業



- ・昨年度、小中学校・幼稚園より39点の応募がありました。本年度は4部門（フレッシュ研究部門、ステップアップ研究部門、就学前教育研究部門、アイデア部門）で実施し、教育研究のより一層の広がりを目指します。
- ・すべての所、園、学校からの応募を期待しています！！

研修講座

- ・11講座の開催を予定しています。
- ・人権教育講座は、2講座を予定しています。
- ・自己啓発講座は、3、4講座を実施予定です。
- ・8月1日（木）に、教育研究所研究発表大会を開催します。

ホームページを御覧ください

研究所の取り組みについて情報発信をしています。



草津市立教育研究所



調査研究

【教育課程に関する調査・実践研究】

- ・「小学1年生の『読み』の力を高める取組～多層指導モデル（MIM）を活用した国語科の授業実践」をテーマにして調査・実践研究を行います。

【地域教材作成】

- ・小学校3・4年生向け副読本「わたしたちの草津」の全面改定に向けて編集委員会を立ち上げます。
- ・社会科副読本「わたしたちの草津」ならびに、指導書(実践事例集)、ワークシート・評価問題の有効活用を推進ください。

スキルアップ事業

- ・担当学校に訪問し、授業づくりや学級づくりなどに関する個別指導を行います。また、全校・学年別・教科別などの授業研究会を通して、学校全体の指導力の向上を目指します。

小学校担当

山元 孝子（草津・草津第二・老上・老上西・南笠東・山田・常盤）

小宮 康（志津・志津南・渋川・矢倉・玉川・笠縫・笠縫東）

中学校担当

北川 健（すべての中学校）

ICT担当

仲野 忠克（すべての小学校・老上中）

私たちもよろしくお祈いします！

所長：北川 健

指導主事：宮嶋 貴憲

研究員：寺西 英里

教科書展示会のお知らせ

期間 6月7日（金）～7月4日（木）

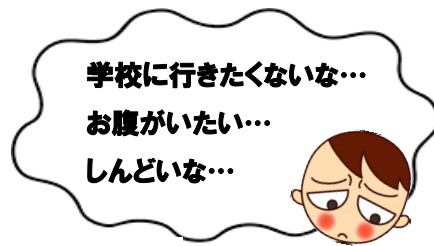
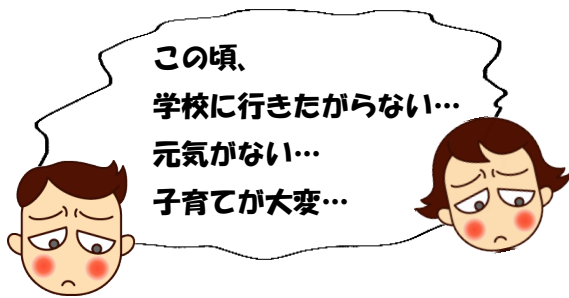
火・木・土 10:00～18:45

水・金 11:30～20:15

（日・月・祝日は休室）

場所 UDCBK（野路一、西友南草津店1階）

やまびこだより



やまびこ教育相談室

さまざまな悩みを抱えている子どもや保護者は、安心できる場所で自身のしんどさを語り、少しずつ現状を客観視できるようになります。相談者自身が本来持っている力を発揮し、解決に向けての方向性を見出していけるよう支援しています。



プレイセラピーって何？

子どもが自分の思いを適切な言葉で語れない場合、遊びなどを通して相談員との心の交流を図り、気持ちが自由に表出されるよう支援します。結果的に子どもの心が癒され情緒が安定するようになります。

適応指導教室

適応指導教室『やまびこ』は、学校に行きにくい状態にある子どもたちが学校復帰を目指してさまざまな活動に取り組んでいます。



指導員紹介

適応指導教室担当…藤井 弘美・西澤 留美子

教育相談担当 …伊庭 裕美・河原田 洋子

くわしくは教育相談主任会で配布した「手引き」を御覧ください。

シリーズ

司書さんのおすすめ絵本



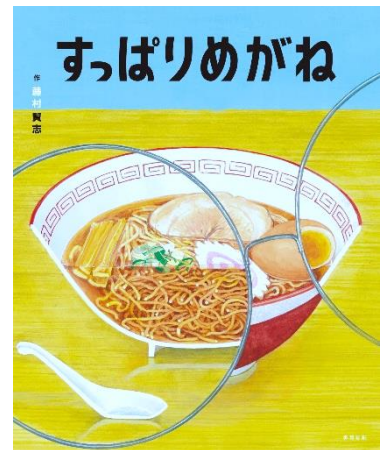
「ドンのかち」(こしだミカ・佼成出版社)

主人公の女の子は、ご飯を食べるのがいつも遅くて気にしています。飼い犬のドンが美味しそうにごはんを食べるのが羨ましくて、その食べっぷりを観察してみることにしました。ドンは、ウィンナーを一口で飲み込んだり、あっという間にドッグフードの山を平らげたり、固いガムを噛んだりしています。女の子は観察をもとに自分でもいろいろ試してみます。子どもの探求心と観察力を迫力のある絵と共に楽しく描いた絵本です。



「すっぱりめがね」(藤村賢志・教育画劇)

男の子が持っている眼鏡はとても不思議な眼鏡。かけて覗くと何でもすっぱり中身が見えます。野菜を見れば、包丁で切られた時の断面が、お皿にのせたおにぎりも皿ごと縦に切られた断面が見えます。ラーメンや、缶詰、時計、ピアノなど、普段なかなか見られない中身を描いています。中でも、軟式野球ボールと硬式野球ボールの中身の比較が面白く、絵本を読んだ子どもたちも笑顔が浮かぶことでしょう。想像力と知的好奇心が刺激される絵本です。



「モラッチャホンがきた！」(トーマス・ドカティー絵 福本由美子訳・光村教育図書)

エリザが住む動物の森では、毎晩、お休み前に家でゆっくりと本を読むお話の時間がありました。7つの海を渡る海賊や、眠れないお姫様の話など、動物たちは本が大好きでした。ところがある朝、みんなの本が部屋から無くなって大騒ぎになります。本を持って行ったのは小さなモラッチャホンでした。その理由とは。そしてこの後モラッチャホンはどうしたのでしょうか。過ちを犯した時に厳しくも優しく接する仲間たちの存在のありがたさと、家族で過ごすお話の時間の大切さを再認識できる絵本です。



読み聞かせにご活用ください